

日頃よりお世話になり、ありがとうございます。
今月は、少し大きな視点の話をします。

今臨時国会でも、TPP や年金の議論がされています。
これらの背景には、今後どうやって国民が働く場所を確保してメシを食べていくのか、あるいは、厳しい財政の中で、どうやって老後の生活を守っていくのか、という課題があります。

実際、これから経済がそれほど成長しない可能性が高い。**経済の実力を示す「潜在成長率」はずっと下がってきて、10年前には1%を超えていましたが、今はゼロに近い。今後はマイナスになってもおかしくない。**アベノミクスの株価・円安政策が仮に成功したとしても、この基礎体力には何の関係もありません。

年金医療介護も、現役世代の人口が毎年減少し、2060年には今の半分になる中、財政的に支えられなくなっています。国防についても、今後、自衛隊に入隊する数も減らざるを得ない。

簡単にいえば、**このまま大きな改革をしなければ、今の若者たちやこれから生まれてくる子供たちにとっては、かなり厳しい時代が待っている**ということです。

働く世代の人口が減ると人手不足がさらに深刻にな

り、工場も海外に移転せざるを得ません。税収も減るでしょう。他方で、2060年には人口の25%が75歳以上になるといわれています。

ところが、**議員は、選挙のことを考えれば、どうしても目先の利益を国民に与えようとしがちです。借金が累積するだけではなく、本来やらなければならない人口政策、経済政策、財政再建などには、「票にならない」ということで力が入りません。**

目先の利益を与える政策では、一定の年齢以上の方々には良いのかもしれませんが、**将来の世代があまりにも気の毒です。**

「遠野物語」で有名な民俗学者である**柳田國男さんの論文に、次のような趣旨の文章があります。**

「国家は、現在生活する国民のみをもって成り立っているのではない。亡くなられた我々の祖先も国民である。その希望も受け入れていくべきである。また、国家は永遠なるものだから、将来生まれてくる我々の子孫も国民であり、その利益も守っていくべきである。」

これが本来の国家意識であり、愛国心である。先祖に恥じない、そして、子々孫々に責任を果たす政治のために、これからも邁進します。